

刑事訴訟法講義案(四訂補訂版)



監修	:	裁判所職員総合研修所
定価	:	本体 4,000 円 + 税
判型	:	A5 判
ページ数	:	564 ページ(本文 498 ページ)
ISBN	:	978-4-906929-45-0
発行	:	平成 27 年 12 月

内容

本書は長年、裁判所職員の研修所における教科書として親しまれてきたもので、昭和47年10月発行以来、法律を学ぶ方々にとって刑事訴訟法の基本書として愛用されてきたベストセラーです。今回の四訂補訂版は、新たに出た判例等が多数補充され、説明が加えられたものです。

序論で刑事訴訟法の基礎原理について、本論で訴訟手続について一連の流れに沿って解説がされています。これから刑事訴訟法を学ぼうとする方から、法学部生や法科大学院生等の理解を深めたい方まで幅広く活用できる一冊です。

目次(抄)

序論	第3章 公訴	第1節 訴訟行為の意義と種類
第1章 刑事訴訟法の歴史	第1節 公訴の基本原則	第2節 訴訟行為の主体
第2章 刑事訴訟法の意義	第2節 公訴提起の手続	第3節 訴訟行為の内容
第3章 刑事訴訟法の基礎原理	第3節 訴因と公訴事実	第4節 訴訟行為の方式・時・場所
第1節 当事者主義	第4節 公訴提起の効果	第5節 訴訟行為の効力
第2節 実体的真実主義	第4章 公判手続	第7章 裁判
第3節 適正手続の保障	第1節 総説	第1節 裁判の意義と種類
第4節 公平な裁判	第2節 公判準備	第2節 第一審の終局的裁判
第5節 迅速な裁判	第3節 公判期日の手続	第3節 裁判の成立
本論	第5章 証拠	第4節 裁判の効力
第1章 訴訟の主体	第1節 証拠裁判主義	第8章 裁判員制度
第1節 裁判所	第2節 証明	第1節 基本構造
第2節 検察官	第3節 証拠の意義と種類	第2節 裁判員の選任等
第3節 被告人とその補助者	第4節 証拠能力	第3節 裁判員の参加する裁判の手続
第4節 犯罪の被害者	第5節 証明力	第4節 裁判員等の保護のための措置, 罰則等
第2章 捜査	第6節 伝聞証拠	
第1節 総説	第7節 自白	
第2節 捜査機関	第8節 共同被告人の証拠	
第3節 捜査の端緒	第9節 違法収集証拠	
第4節 捜査の実行	第10節 証拠調手続	
第5節 捜査の終結	第6章 訴訟行為	
		判例索引
		事項索引
		刑事訴訟手続概要